２０１２年３月１０日発行　特別臨時号

KFC 通信

２０１２年

３月特別臨時号

岩村慧一顧問と　フリーフライトの輝く暁の時代

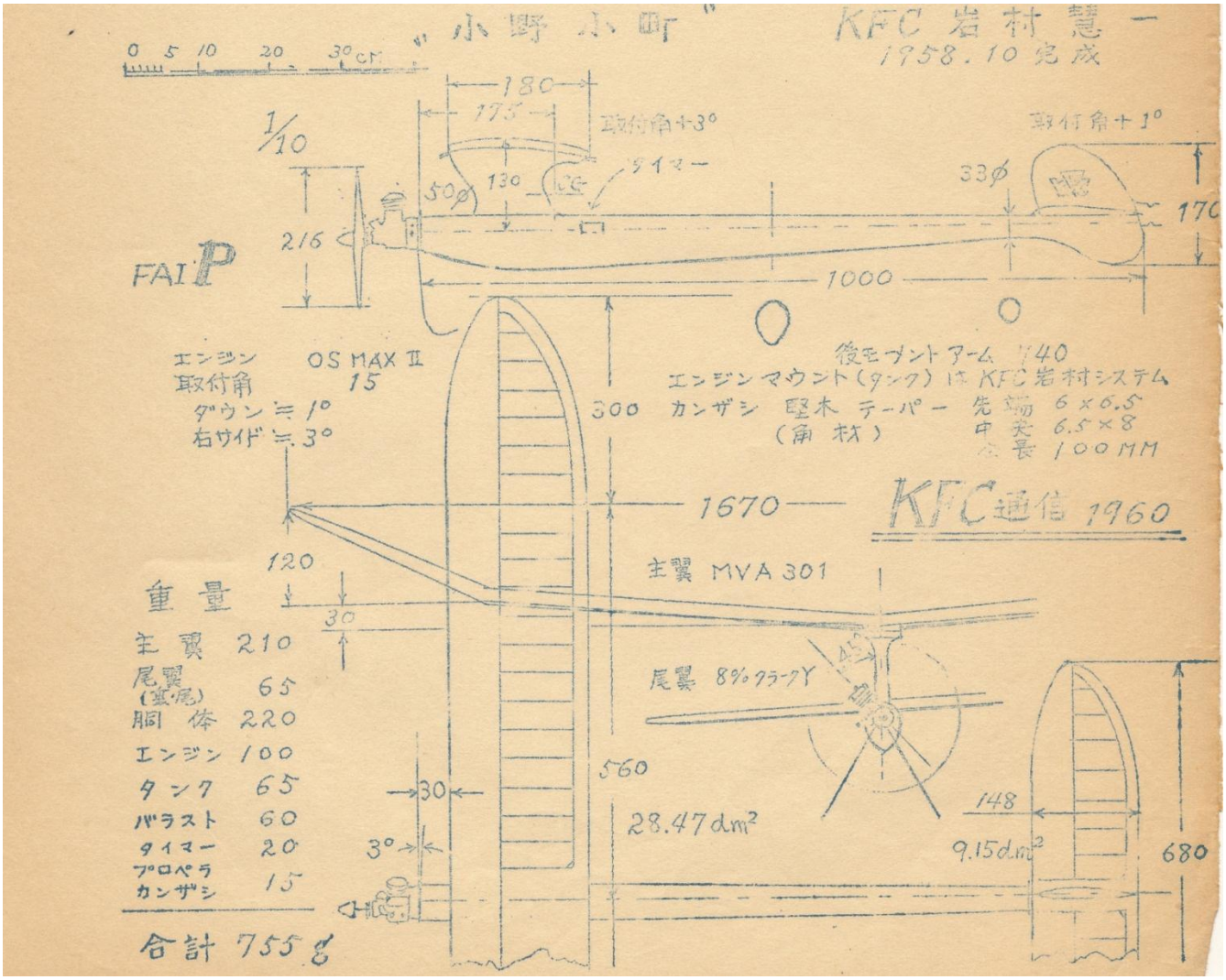
写真：岩村さんは生涯現役。2010 年 CFFC 松茸大会にて。おなじみの始動用具箱と折り畳み自転車と。

では、1960 年代の輝くフリーフライトの暁の時代にタイムスリップ。

［編集者注］　ＫＦＣ通信は休刊中でありますが「岩村さんメモリアル」ということで臨時復刊させました。
2012 年「二宮賞」本格復活に合わせて記念とさせていただきます。（編集部・高田富造）

発行　京都フリーフライトクラブ

第１回二宮賞入賞機はこんなスタイルでした！　まずは、岩村さんの原点「小野小町」です。



製作者のことば

W級　佐藤義信（東京・選手会）　江戸川区上一色町７４８

ＥＬＩＳＥ"５"は，もともと前作４号機に翼を新装した合成機なので，調整は非常に楽で，５回目位から全力捲き（５６０程度）で飛ばせました。ペラとゴムのコンビネーションは前作機で１００回以上の飛行を経ていますので，かなりの処まで追いつめたことを自負しています。６００～６５０まで捲けそうですから，もつと飛ぶと思います。

ピッチ・レシオをそのままにして，ダイヤを１～２CMのばせばモーターランも伸びてスムースな飛行をするような気がします。例の翼型は，オーソドックスな行き方でありませんのでおすすめできませんが，害のないことはたしかのようです。またロングモーメント独特のグライドも楽しいものです（上昇には無理がのこるようです）ノースラスト，主翼面積を小さくしたこと（上昇を良くするため）尾翼の後縁ドロップなどかなりの実験的要素に富んだ機体です。しかし，当分，私はノーデックに専念したいと思いますので，思い出のエリーゼを京都訪問の帰路ＫＤクラブの研究用に寄托し，ノーデック「赤い城」の製作を始めました。

W級　小野　哲（KFC・KD）　京都府綾喜郡田辺町興戸

ＷＦＫＤ２８巨栃おぐらはＫＤ２７玉水の姉妹機です。オートラダー装備による急上昇姿勢の確保と耐久性と整備容易とを特徴にもつ機体です。佐藤さんの育てた優美なエリーゼとならべると，武骨な巴御前的な感じがします。姉妹機が極めて多く，ＫＤ羽曳野チーム藤田主将以下８名７機とパリ滞留中の北村機２機を合せると同型機１８機（喪失４機・現有機１４機）です。玉水・巨栃はそろそろＯＢ組ですが，「作れば飛ぶ」というわけで，羽曳野病院ではライトプレーン組から一足とびにＷＦＫＤの患者さんが続出して一寸したＷブームです。２０機目ＷＦＫＤ４６は４月末に生れます。ＫＤチーム全員の宿望はピレリに勝る国産ゴムの出現と，そして世界選手権の獲得です。

ＦＡＩパワー級　岩村慧一（KFC）　右京区山ノ内宮前町２２

小野小町（オノノコマチ）の制作は５８年５月からで第１号機助六（スケロク）の予備機として，東男（アヅマオトコ）の助六に対する京女（キヨウオンナ）というつもりで小野小町と名付けました。助六には揚巻（アゲマキ）という予備機がありましたが，同年５月八尾大会で民家の大屋根に激突し機首を折り右翼をもぎとられて行方不明になりました。本機はまだ全力を出し切つていませんが，調整次第で２分３０秒は確実と思いますので発表することにしました。

本機の特徴は，(1)見かけより丈夫なこと（胴は上下４×４左右２×５のヒノキを入れ，前方３００まで７０～８０間隔・後方１００～１２０間隔の枠を入れ２ミリバルサのねばい質のものをはりました）(2)タンクをエンジンマウントと一体に作りバラストを兼ねさせた（ＯＳ用は真チユウ製・エンヤ用はジユラルミン）＊編集者注　このマウントはＫＦＧ岩村システムともいうべき精密加工品で従来Ｗ一本のＫＤチームも発注を開始した。(3)木製テーパーカンザシ（安全ピン）テーパーのボックスを強く丈夫につくり，シヨックはテーパーカンザシの切断で緩和する。（カンザシを折つても主翼は無傷）

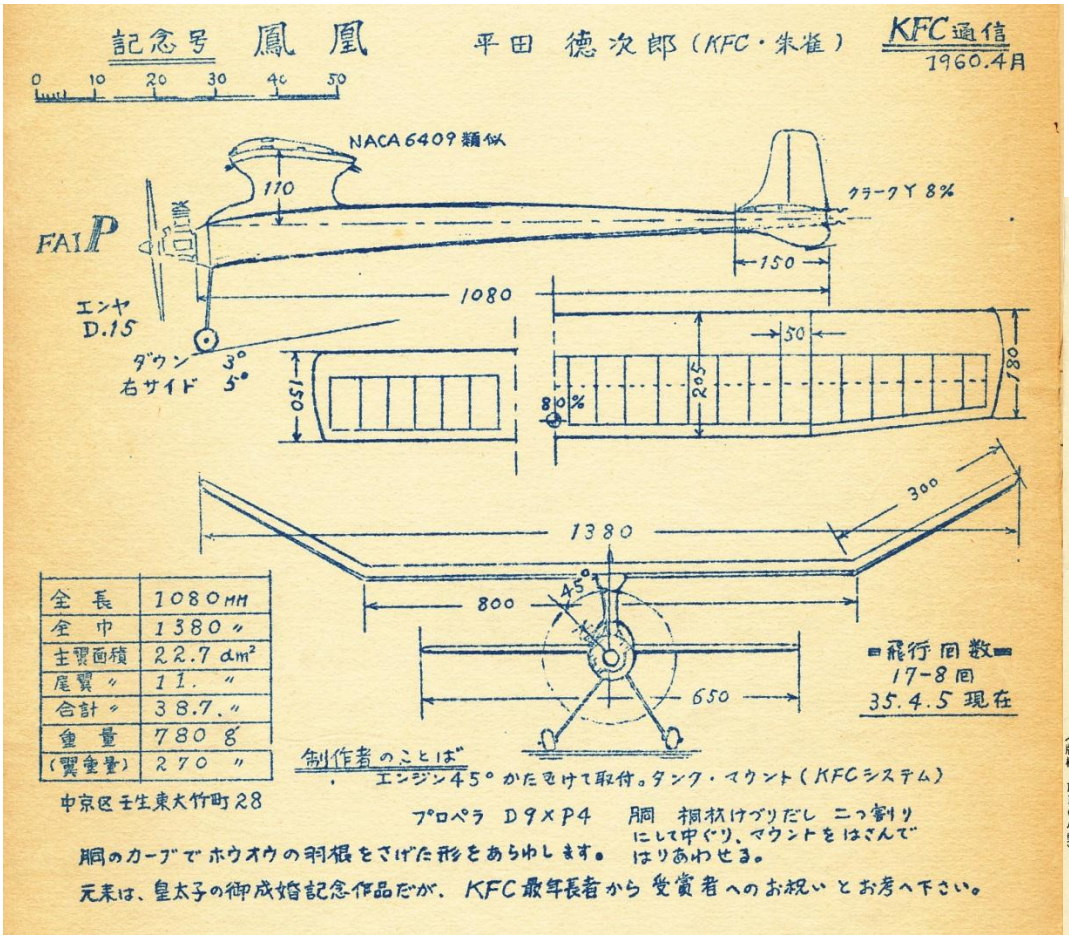
現在，小町はタイマーの故障と同修理のため入院中ですが，５月８日八尾大会までに退院して再び皆様にお目もじしたいと申しております。

N級　鈴木英夫（東京・選手会）　江戸川区小岩町６ノ２６５

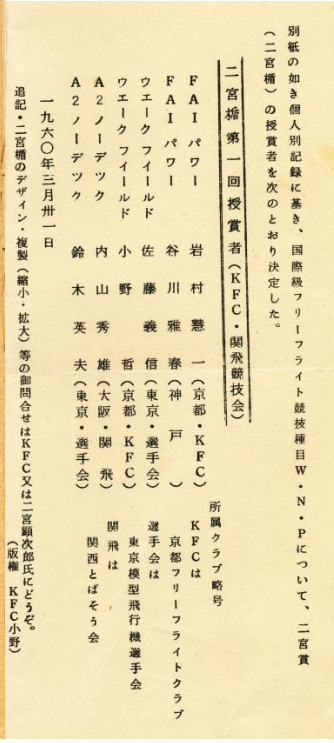
私のＮ級１号機が，はからずも二宮賞を得ました。昨年１２月に完成し，まだ１７回しかとばしていませんが１０回目で３分オーバー（始めての機体がこんなに飛ぶなんて思わなかつたのでとてもうれしかつた）強風のため競技会の本番では右にそれたり索が早く脱れたりで記録には強風下の練習不足がはつきり表われています。これから練習中は少し風が強くても曳行する位でなければ実戦には通用しないことを痛感しています。（この次は，きつと成功してみせるつもりです）

この機体の特徴は，(1)とてもすなおな機体である（普通の風なら曳航は方向舵が定まればすなおに一直線に上り，旋回もとてもスムーズです。）(2)主翼が軽い。(3)デッドエアーではいつも２分４０秒で安定していること，などです。

これからも佐藤さんと新しい機体をどんどん作つて行くつもりであります。



ＫＦＣ通信アーカイブ版から。原本の紙がぼろぼろなので不鮮明です。



別紙の如き個人別記録に基き、国際級フリーフライト競技種目W・N・Pについて、二宮賞（二宮楯）の授賞者を次のとおり決定した。

二宮楯第一回授賞者（KFC・関飛競技会）

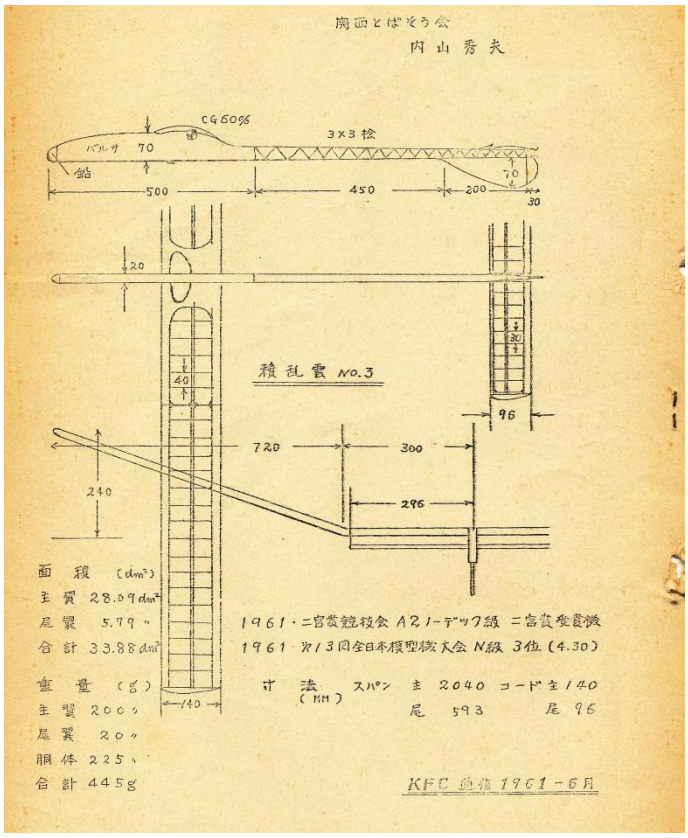
		所属クラブ略号
FAIパワー	岩村慧一（京都・KFC）	KFCは京都フリーフライトクラブ
FAIパワー	谷川雅春（神戸）	選手会は東京模型飛行機選手会
ウェークフィールド	佐藤義信（東京・選手会）	関飛は関西とばそう会
ウェークフィールド	小野哲（京都・KFC）	
A2ノーデック	内山秀雄（大阪・関飛）	
A2ノーデック	鈴木英夫（東京・選手会）	

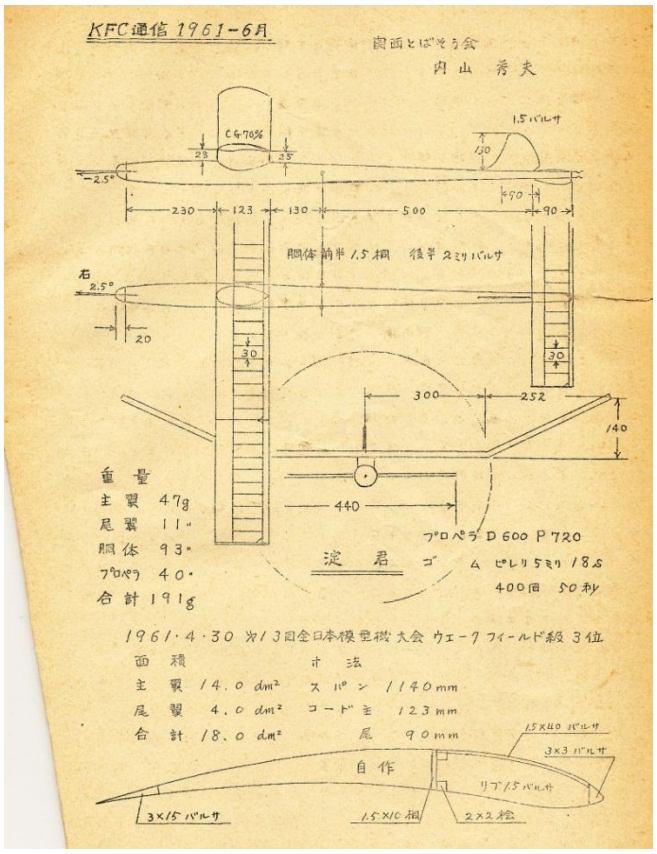
一九六〇年三月卅一日

追記・二宮楯のデザイン・複製（縮小・拡大）等の御問合せはKFC又は二宮顕次郎氏にどうぞ。

（版権 KFC小野）

元老・平田徳次郎さんは誌上参加で記念号を披露されていました。もちろん元気そのものでしたぞ。

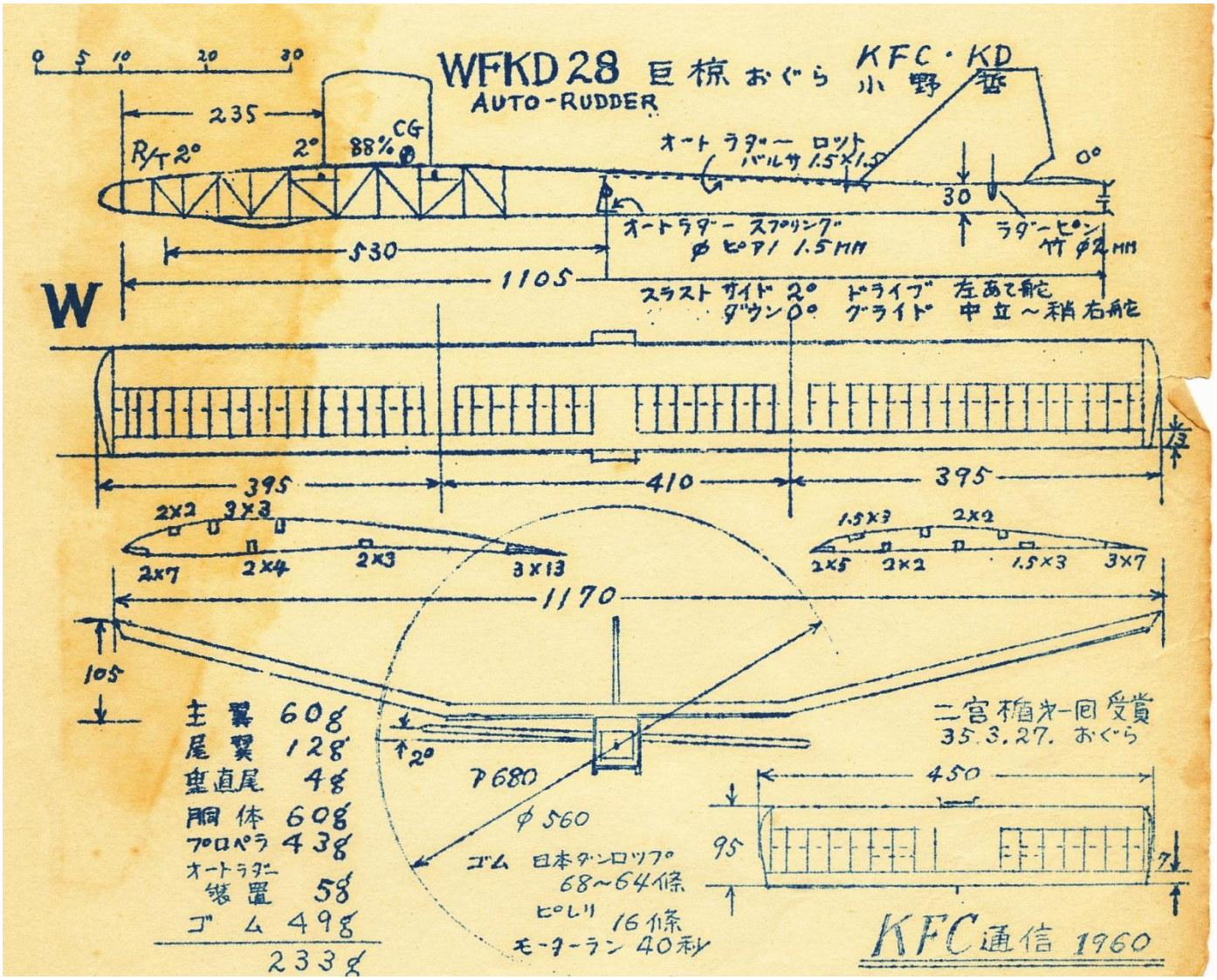


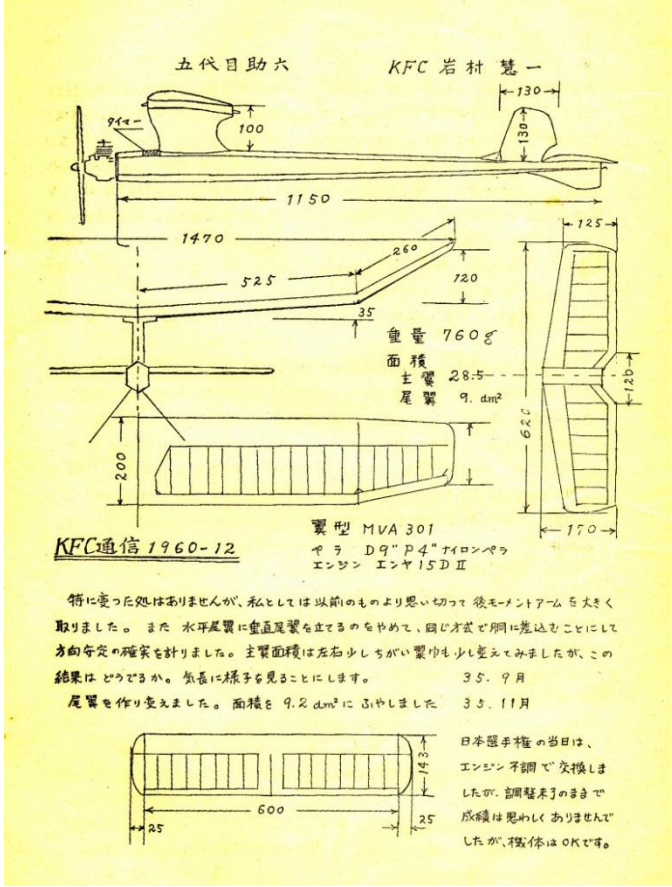


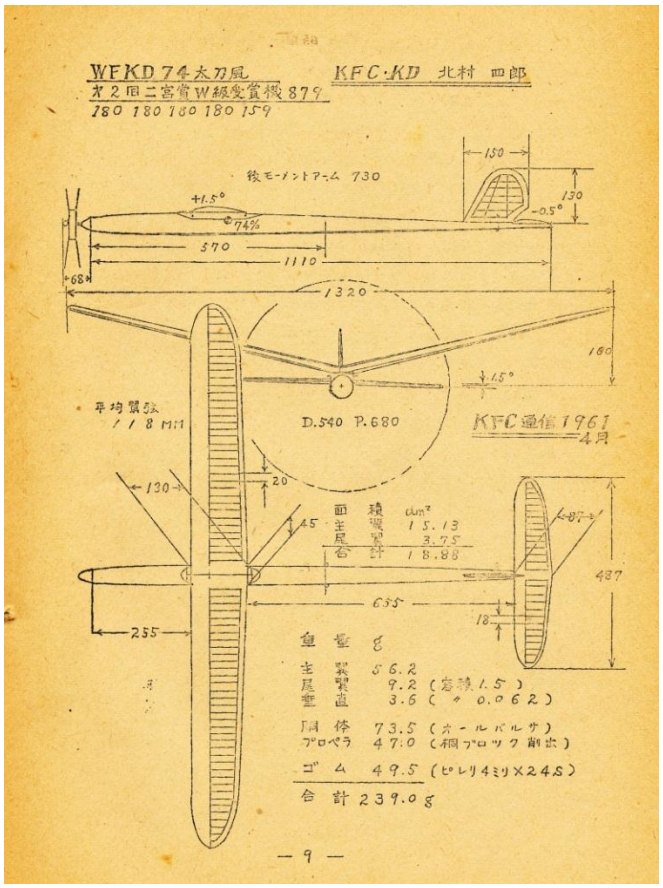
内山秀夫さんと言えばノルディックですが、ウェークフィールドも飛ばされていました。

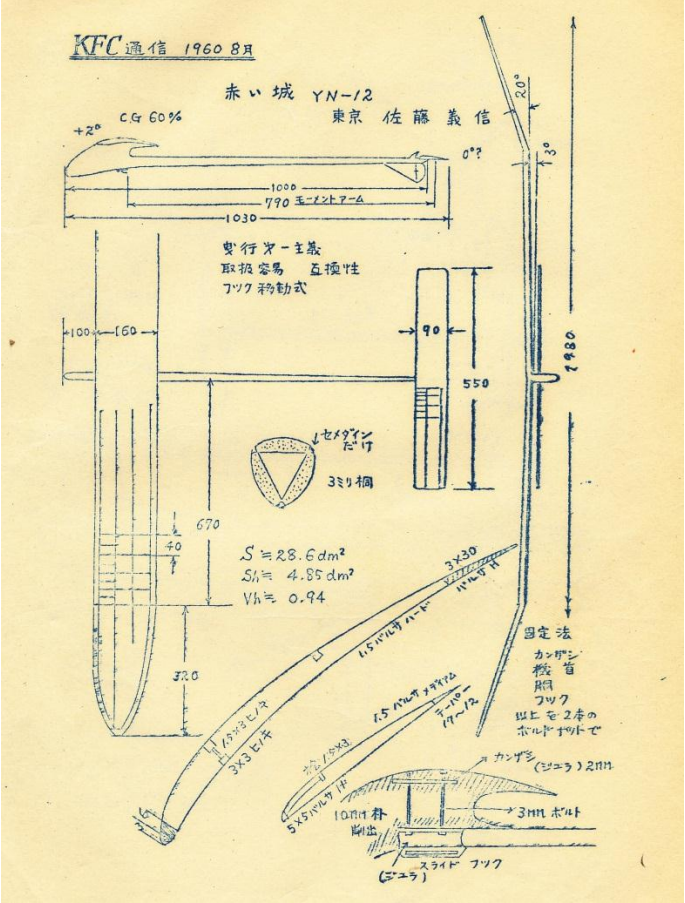
貴重な図面が残っていました。

小野哲先生のＷＦＫＤシリーズも時代を代表する名機です。当時としては画期的なオートラダー装備です。

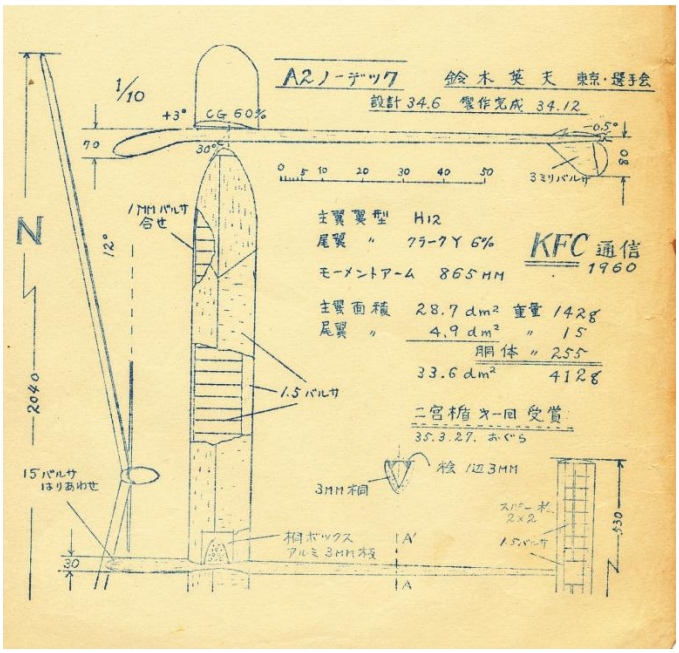

WFKD28 巨椋おぐら KFC・KD 小野
AUTO-RUDDER
R/T 2°
2°
88% CG
235
オートラダー ロッド バルサ 1.5×1.5
0°
30
オートラダー スプリング φピアノ 1.5MM
ラダーピン 竹 φ2MM
530
1105
W
スラスト サイド 2° ドライブ 左あて舵
ダウン 0° グライド 中立～稍右舵
395
410
395
2×2 3×3
2×7 2×4 2×3 3×13
1.5×3 2×2
2×5 2×2 1.5×3 3×7
1170
105
主翼 60g
尾翼 12g
垂直尾 4g
胴体 60g
プロペラ 43g
オートラダー 装置 5g
ゴム 49g
233g
2°
P680
φ560
ゴム 日本ダンロップ 68～64條
ピロリ 16條
モーターラン 40秒
二宮楯第一回受賞
35.3.27. おぐら
450
95
KFC通信 1960


五代目助六
KFC 岩村 慧一
ダイヤ
100
130
130
1150
1470
525
26°
120
35
125
重量 760g
面積
主翼 28.5
尾翼 9. dm²
620
120
200
170
KFC通信 1960-12
翼型 MVA 301
ペラ D9" P4" ナイロンペラ
エンジン エンヤ 15DⅡ
特に変った処はありませんが、私としては以前のものより思い切って後モーメントアームを大きく取りました。また水平尾翼に垂直尾翼を立てるのをやめて、同じ方式で胴に差込むことにして方向安定の確実を計りました。主翼面積は左右少しちがい翼巾も少し変えてみましたが、この結果はどうでるか。気長に様子を見ることにします。 35. 9月
尾翼を作り変えました。面積を 9.2 dm² にふやしました 35. 11月
600
25
25
日本選手権の当日は、エンジン不調で交換しましたが、調整未了のままで成績は思わしくありませんでしたが、機体はOKです。


WFKD 74 大力風
第2回二宮賞W級受賞機 879
780 180 180 180 159
KFC・KD 北村 四郎
後モーメントアーム 730
150
130
+1.5°
-0.5°
74%
570
1110
68
1320
160
1.5°
平均翼弦 118 MM
D.540 P.680
KFC通信 1961 4月
130
20
45
面積 dm²
主翼 15.13
尾翼 3.75
合計 18.88
487
635
255
18
重量 g
主翼 56.2
尾翼 9.2 (厚さ 1.5)
垂直 3.6 (〃 0.062)
胴体 73.5 (カールバルサ)
プロペラ 47.0 (桐ブロック削出)
ゴム 49.5 (ピロリ4ミリ×24S)
合計 239.0g
— 9 —

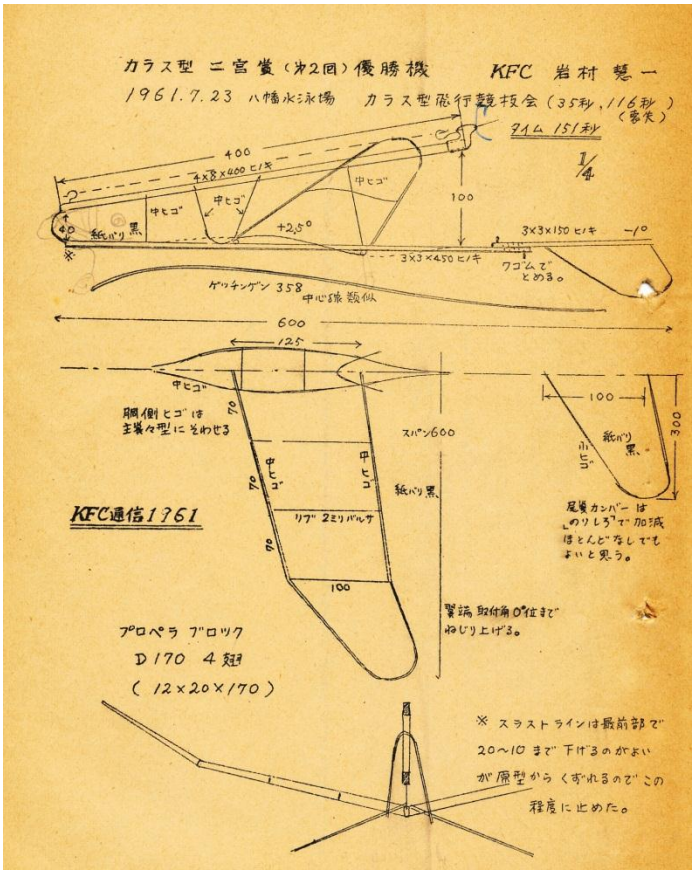


前頁は北村四郎さんの「太刀風」。小野先生の実用スタイルに対しておしゃれを追求されていました。岩村さんの「五代目助六」に変化を見ていただきます。



関西は実用性第一の内山さん風のノルディックでしたが、当時の関東勢は洗練され、ため息の出る美形でした。佐藤さんの「赤い城」は一世風靡でした。湘南の木村さんの二宮賞のバックアップ、忘れません。

そして、岩村さんと言えば「カラス型飛行器」です！



二宮賞とともに始まったのがカラス型飛行器競技会です。八幡市の飛行神社から二宮忠八の発明の復元を依頼されたことから小野哲先生や岩村さんたち先人が取り組みました。「ほんならこれで競技会しよか」となったのがＫＦＣらしいところです。結局これも５０年以上も続けました。カラス型の飛びっぷりは御存じの通りです。

この図面では現代のものが完成されています。

カラス型飛行器の複製は大英博物館にも収納されました。ＪＡＬの機内誌にその記事がありました。

カラス型飛行器もう一人の大家は松本満夫先生です。お二人ともお別れにはカラス型飛行器を飾られていました。カラス型のフライオフを楽しんでおられることでしょう。

２０１２年のカラス競技会は４月１５日(日)、平城宮跡を予定しています。

前頁まで収録のＦＦについて

１．岩村慧一：Ｐ級　小野小町　１９６０年　　岩村さんの人生を貫いた主題はここから

２．平田徳次郎：Ｐ級　鳳凰　１９６０年　　還暦のちょっと後かな

３．内山秀夫：Ｗ級　淀君　１９６１年　　Ｗ級でも鳴らしておられた

４．内山秀夫：Ｎ級　積乱雲　１９６１年　　Ｎ級の師匠格

５．小野哲：Ｗ級　巨椋ＷＦＫＤ２８　１９６０年　ＫＦＣで最初にパリ世界選手権に派遣

６．岩村慧一：Ｐ級　五代目助六　１９６０年

７．北村四郎：Ｗ級　太刀風　１９６１年　　日本選手権者

８．佐藤義信：Ｎ級　赤い城　１９６０年　　洗練された機体に惚れました

９．鈴木英夫：Ｎ級　１９６０年

１０．岩村慧一：カラス型　第２回優勝機　１９６１年

いわば　有限会社へ、さらに株式会社へ、ＫＦＣの継続の鍵

１９５６年岩村さんたちがＫＦＣを結成
１９６０年小野先生のガリ版でＫＦＣ拡大期へ
木引敬一会長の牽引力の８０年代
國際舞台で活躍の９０年代へ

ＫＦＣの結成

１９５６年、私は加茂川中学２年生だった。ある日の夜、故・谷藤年雄さん（富士屋模型店）に誘われ、丸山卓くんと市電に乗って故・平田徳次郎さんの朱雀模型店に向かった。奥さんがお好み焼き屋で旦那の道楽商売を支えておられて、その２階の座敷に集まった。

岩村慧一さん、石倉由雄さん、市川孝さん、加藤明雄さんなど。中学生はもちろん２人だけだった。これが京都フリーフライトクラブの結成である。谷藤さん、高橋秀雄さん(昇弘堂模型店)、平田さんなどはお亡くなりになり、近年には生き残った現役は岩村慧一さんと私の２人になっていた。２人のフライオフとなれば粘り強い岩村さんが勝ち残るかと思っていたが、先に視界没になられた。勝ち逃げと言うところだ。

私はすぐにウェークフィールドを製作した。もちろん谷藤さんのコピーである。近所の中学生谷川君が上手で競争だった。１９５７年日本選手権（浜松市）には私がW、丸山君がNで参加した。初めてで１ＭＡＸを出した感激で病み付きになったということだ。この年は記録で大村敏和さんに勝っていたのを後で知った。

その頃の練習場と競技場はもちろん巨椋田んぼ。近鉄沿線にも住宅はまだなく一面の田んぼだった。今は高速道路のジャングルジムが張り巡らされているので想像できない。

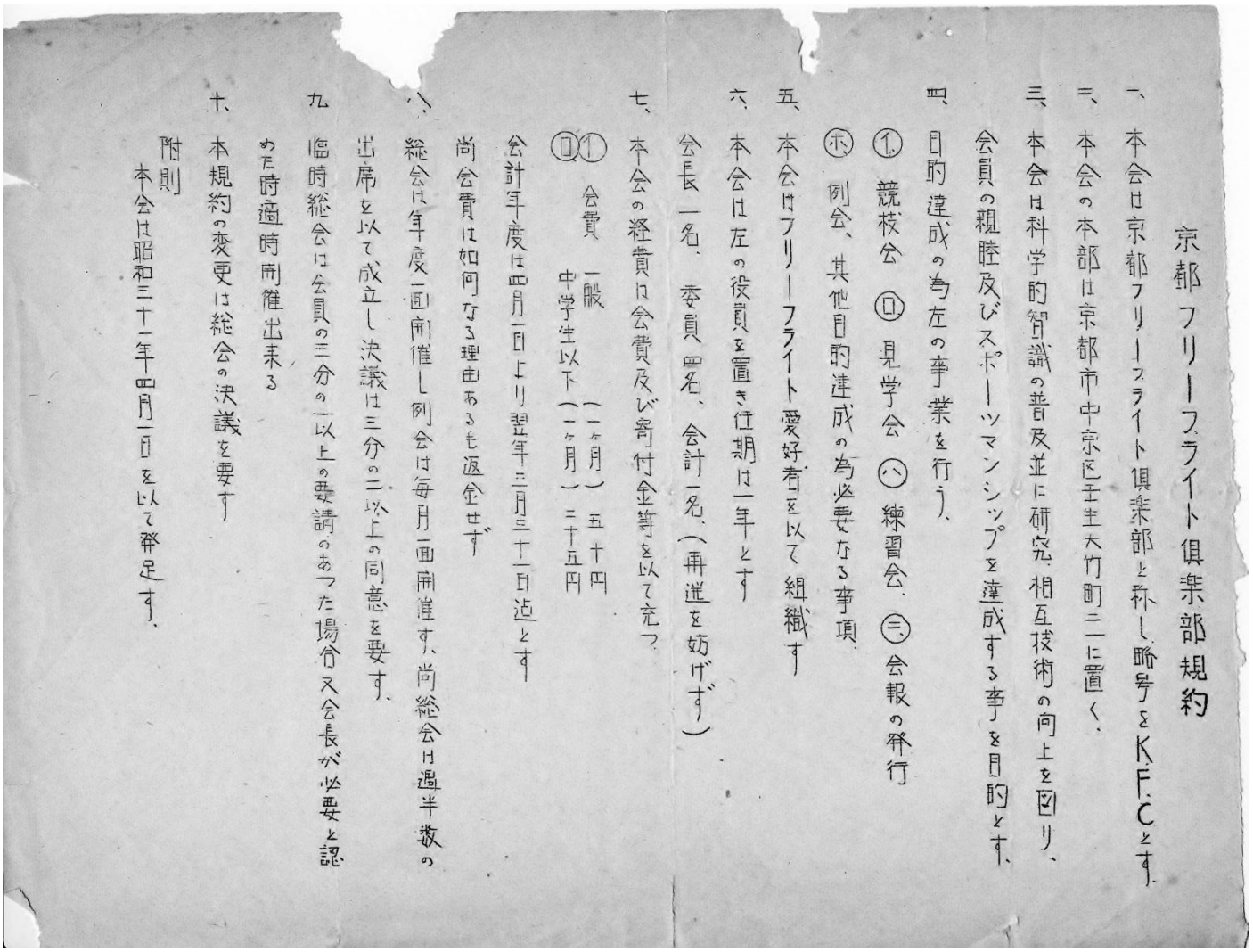
ある日、我々の練習ピットの川向うから急角度で直線上昇するW機を見た。その頃の常識を越えた飛行にみんな驚いた。これが小野哲さん、北村四郎さんのコンビとの遭遇だった。

１９６０年、小野さんはパリの世界選手権代表に選ばれた。ＫＦＣが世界に目を向けた最初であった。東本願寺の故・大谷演慧師の姿も歓送会の写真にある。住まいの枳殻邸でＵコンを飛ばした道楽ぼんさん。

小野先生のガリ版で発展したＫＦＣ

１９６０年第１回二宮賞競技会は関西飛ばそう会とＫＦＣの団結で実現した。この推進力になったのは小野先生のガリ版の威力だった。機関誌が活動の中心に座ったＫＦＣのスタイルが生まれた。同志社大学法学部（当時助教授、のちに学部長）の多忙な身なのに自らガリ版を切っておられた。今時はコピーかワープロだけれど、ガリ版は、シコシコ、カリカリ、大変な代物だ。車も前部にワインダーがついて巻くヒルマンミンクスだった。

京都フリーフライト倶楽部１９５６年発足の規約原文…中学生割引が会費と競技会参加費にあった。（下）



京都フリーフライト倶楽部規約

一、本会は京都フリーフライト倶楽部と称し略号をK.F.Cとす

二、本会の本部は京都市中京区壬生大竹町二に置く

三、本会は科学的智識の普及並に研究、相互技術の向上を図り、会員の親睦及びスポーツマンシップを達成する事を目的とす

四、目的達成の為左の事業を行う

(イ) 競技会 (ロ) 見学会 (ハ) 練習会 (ニ) 会報の発行 (ホ) 例会、其他目的達成の為必要なる事項

五、本会はフリーフライト愛好者を以て組織す

六、本会は左の役員を置き任期は一年とす

会長一名、委員四名、会計一名（再選を妨げず）

七、本会の経費は会費及び寄付金等を以て充つ

(イ) 会費 一般（一ヶ月）五十円

(ロ) 中学生以下（一ヶ月）二十五円

会計年度は四月一日より翌年三月三十一日迄とす

尚会費は如何なる理由あるも返金せず

八、総会は年度一回開催し例会は毎月一回開催す、尚総会は過半数の出席を以て成立し決議は三分の二以上の同意を要す

九、臨時総会は会員の三分の一以上の要請のあった場合又会長が必要と認めた時適時開催出来る

十、本規約の変更は総会の決議を要す

附則

本会は昭和三十一年四月一日を以て発足す

ここでＫＦＣは組織形態が整い、一気にいわば有限会社になったようなものだ。世間も高度経済成長の始まりで（夕陽丘３丁目の時代）個人会社から有限会社、さらに株式会社、巨大独占企業体へ変貌したように。マブチモーターの社長が風呂敷包みを背負って京都の模型店へ行商していた。そんな時代だ。

ＫＦＣ通信の定期発行は、小野先生から桃山高校模型部のみなさん、白野四朗さんや増田哲司さんなどにバトンタッチされて維持された。最高時の印刷は２００部を超えていた。すごいエネルギーだ。後半は私が受け持ったが息切れして休刊に至ったのは慙愧に堪えない。ただ一世風靡の思い出は大きい。

木引敬一さんと言う怪物

桃山高校の模型部の水準はＫＦＣ通信アーカイブ版ＣＤＲで読める。私は１９６０年に進学してＦＦをしばらくお留守にしたので、このあたりの事情は記憶から抜けている。あとで木引さんから断片的に聞いて感心した。私の復帰にも白野仁朗さんや増田哲司さんの支援が忘れられない。宮本茂樹さん、井丸準一さんも桃高である。

木引敬一さんの二宮賞と日本選手権の戦歴は凄いものだ。不滅の記録である。しかもＦ１Ａ、Ｆ１Ｂ、Ｆ１Ｃと全てこなし、のちにはＦ１Ｃの鉄人と思われたが、じつはＦ１Ｂで世界選手権に初参加しているのだ。

私は復帰してすぐ、１９７６年御殿場でＦ１Ｂに優勝できたが木引さんの牽引力が大きかった。日曜日と言えば練習が当たり前の生活だった。まだ週休二日制でないのに家族もほったらかし。すまないと今思う。

木引さんが会長を引き継ぎ、活動スタイルはさらに整頓され、いわば株式会社の段階にレベルアップした。木引さんは競技でも会運営でも強引なほど牽引力と指導力を発揮した。やることすべて国際水準で考えた。

最盛期のＫＦＣは機関誌を土台に、世界を見据えてまさに驀進した。
忘れられないのは、１９７９年のタフトの世界選手権で木引さんがＦ１Ｃで２位になり、中国選手団から上海ラバーの箱が託されたことだ。中国の改革開放のメッセージをピンポンならぬ模型と言う分野で受け取ったのだ。１９８６年の日中友好大会として実を結んだ。鉄の壁のソ連の先進技術を中国から中継で学び、日本の大躍進が始まったのだ。文革の名残ある時代に郭浩洲先生、陶象乾先生は恐れず技術を提供していただいた（ともに故人）。

モンゴルへ岩村さん８０歳で国際競技会に

改革開放が進みすぎると国家の支援を失った中国との交流は薄れた。代わって台頭した若い力はモンゴルだった。金川茂さんが世話役として交流が始まった。２００６年、岩村さんは８０歳を過ぎてＦ１Ｊ現役選手として参加され優勝までされた。
ＫＦＣは小野先生のパリ大会以来、世界を目標にする意欲にあふれ数多くの世界選手権に参加した。１９８６年のプラハの春に遭遇したことやエピソードにもあふれている。岩村さんは常にその中に気持ちを位置されていた。１９６０年代にプラハのコーハトさんから送られたＦ１Ｃの図面がＫＦＣ通信に掲載されましたが、ああでもない、こうでもない、顔を寄せて議論した。垂直尾翼の天辺から水平尾翼の後端に線が引かれていた。なんやろ？ＶＩＳの仕掛けの一部であることは後でわかった。ＶＩＳの仕掛けを図から解明しＫＦＣ独自の装置を標準化した。主翼の「中央プランク」という箱型桁やＭＶＶＳのディーゼル採用などＫＦＣ流はコーハトさんから岩村さんが貰ったアイデアだ。最近、プラハで電話帳を探したがわからなかった。

一時休憩から新たな出発

ＫＦＣは機関誌の発行を休止し、いったん肩の力を抜いた。二宮賞は区切りをつけ「関西ＦＦ競技会」として関西ＦＦクラブ連合会の主催とした。しかし競技活動に休止はなかった。岩村さんのＫＦＣへの愛情がみんなを引っ張ってくれた。２０１１年春、岩村さんの呼びかけと賛同で再び二宮賞の名称は復活した。岩村さんが一番喜ばれる形が再生されたことは、今思えば最高にうれしいことである。これからも皆様の力を信じて道を開きたい。

（高田富造）

２０１０年７月、大中ＪＡで開かれた模型飛行機教室。赤シャツは岩村慧一さんだ。若いお母さんたちと子どもたちが多くて驚いた。
大中とのお付き合いは２５年になるが、岩村さんの「発見」から始まる。大中ＪＡにお邪魔して相談したら大中北地区を紹介いただけたのだ。
大中北地区では模型教室を続けてきたが、最初の頃の子どもたちは今や農家の後継ぎで活躍されている。

ＫＦＣ通信の記憶
忘れられないクッシーの連載記事

ＫＦＣ通信の編集を担当した期間に強い印象のものがいくつかある。大村和義さんの最新技術の紹介、金川茂さんの世界のＦＦ有名人訪問、黒川晋さんのＨＬＧ図面、湘南の石川保則さんの中国可変モントリオールの分解による精密図面…。
なかでも衝撃だったのがクッシーこと櫛引敬司さんのＦ１Ａのサークリングフックについての大連載だ。しかも原文はロシア語なのだ。今なら翻訳ソフトでいちころだがどうしてされたものか。ああでもない、こうでもない、と侃侃諤諤、いろいろ自作したあのころは本当に楽しかった。2010 年二宮賞でくじ引きとはいえ櫛引さんとＦ１Ａで１位、２位に並んだこと、奥様とツーショット写真を撮れたこと、良き思い出だ。　　(高田富造)

中央が櫛引夫妻、優勝なのだ。

［写真・上］

これはいつの二宮賞か記載がない。ＫＦＣの最盛期の１枚だ。みんな若い。右前の一角に平田さん、長谷川さん、川阪さん、藤田さん、伊藤名人、松本さん、JIRO 名人がいる。真ん中あたりに加藤弁護士、白野さん、井丸さん、青山さん、吉岡さん。左の方に内山のオッチャン、前田さん、相澤さん、北村さん、吉川広さんがいる。実は画面の左の外に平尾さんのサングラスがいる。右上隅は木引さんと岩村さんなのだ。一人置いて楠本さんが懐かしい。みんな若かったなあ。丸さんはどこだ？一方で新しい顔ぶれも参加しているのがわかる。ＦＦは継承され不滅なのだと思う。

［写真・左中］

2011 年３月、京都・巨椋田んぼでＬＰを楽しまれた岩村慧一さん。ラストフライトだ。巨椋はＫＦＣの生まれ故郷。2010 年の夏、もう一度競技会ができないか、農協、土地改良区、自治会を一緒に回ったが難しかった。

［写真・左下］

2011 年１月４日、大中田んぼで初飛ばし会。岩村さんはＦ１Ｊを置いてきてＬＰを調整された。２月のキシメン大会は欠場であった。

Iwamura and his decorated "Kogo" F1C

KEIICHI IWAMURA

F1C Japan

KEIICHI IWAMURA, 53, is married with 2 children, operates a lathe for his own Miyame factory. He has placed very high at many Japanese Champs. An Italian glasfiber/carbon fiber epoxy prop is revved by his Rossi and stopped by a Kerr brake. His "Kogo" design is elegant and embraces a Seelig timer. Keiichi has flown free for 30 years, lives in the lovely city of Kyoto.

1979年それは
日本のＦＦが世界舞台に躍進

ＫＦＣにとっても日本のＦＦにとっても忘れられないエポックとなった。世界と対等に勝負できる体質と気概を確立したことで記憶に残る。木引さんＦ１Ｃ２位。

d son with his "F-12" power job

I feel honored to have received your offer to publish my model as one of those to be flown at Taft in October.

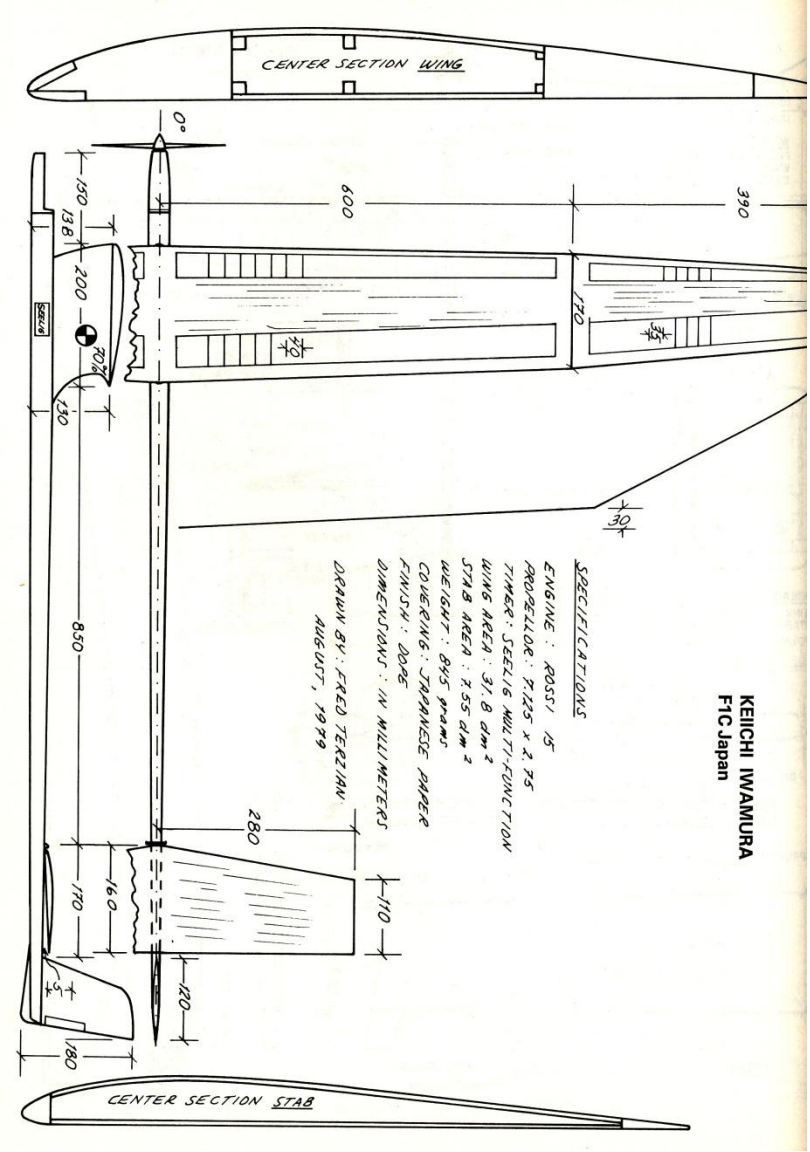
Please find drawings of my F-12, the best model at present, enclosed herewith. I have not made a three-view drawing of the model but I have component drawings. Please make a three-view drawing using them.

I had pictures taken of the model and myself yesterday. I will send you a few prints next week.

I designed this model in 1976 and constructed it in 1977. I was strongly impressed by the aerodynamic cleanliness of those models of Coster, Schaller and Verbisky which I had seen at Provdiv and thus, the design was influenced by them.

I preferred a combination of conventional flanged engine mount and FRP cowling to half pan type mount because of availability. I adopted a triple fin layout to obtain long moment arm for both vertical tail and horizontal tail in a limited fuselage length. I determined the maximum fuselage length to be 1255 mm for the sake of transportation easiness.

I made the first flight of the model at the end of 1977. It experienced serious damage on the wing two times and increased weight by 20 g after suc-

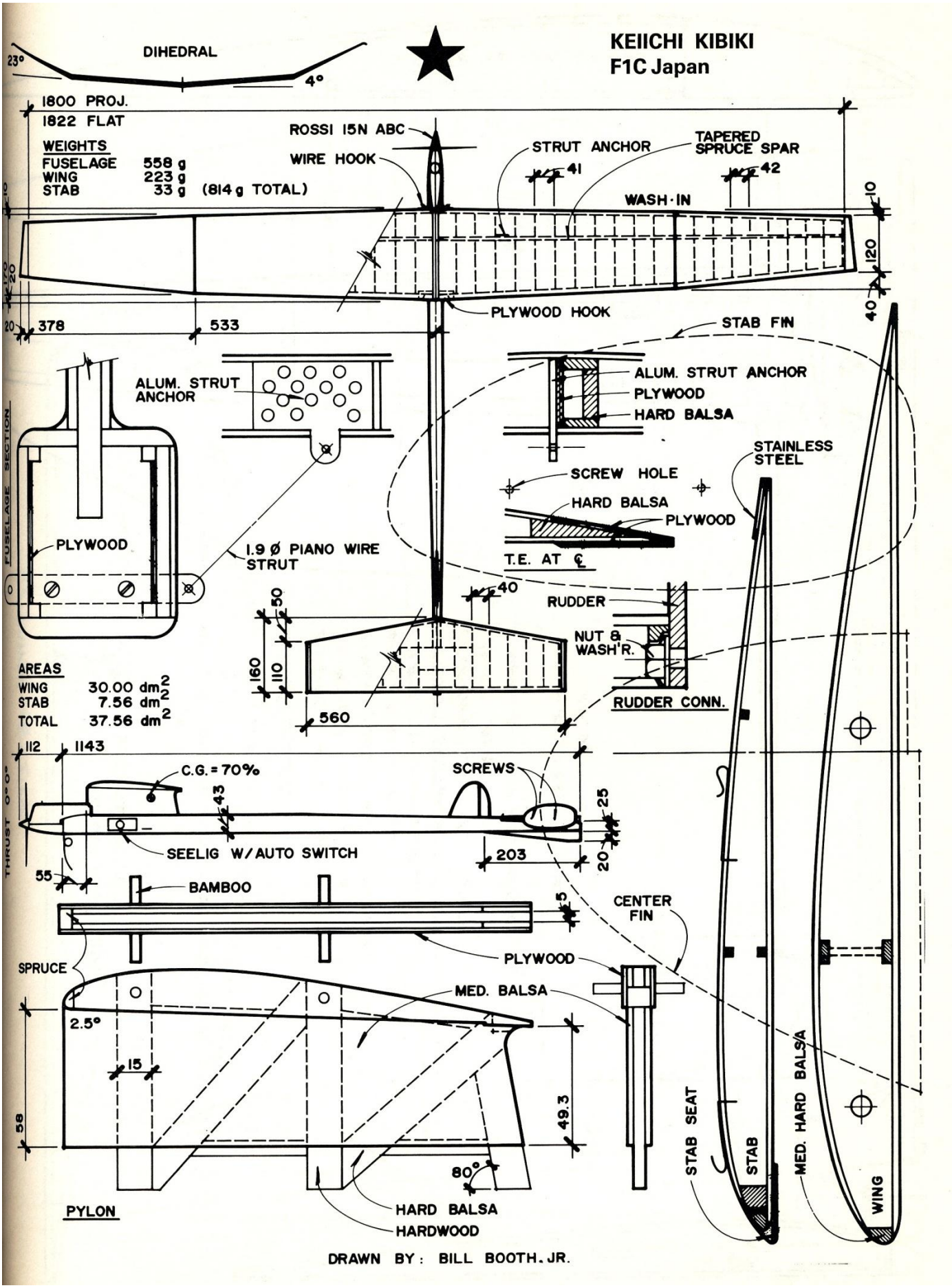


タフト砂漠の決勝戦でマリオ・ロッカと争いわずかな地面の凹凸の差であった。木引さんと岩村さんの共同の大きい功績である。ＫＦＣのＦ１Ｃ組の功績でも。

練習の鬼、木引敬一前会長

ともかく日曜日と言えば練習。風が吹いても雪が積もってもおかまいなし。世界選手権ならどうなんや、というのが彼も論理だった。競技会でも妥協しなかった。ひいひい言いながら雨でも風でもみんなが文句を言わなかった。

月光仮面とか仮面ライダーと言われたオートバイ時代から練習場が大中とかなり遠くなってからはアッシー君にされ、日曜日は全て駆り出された。大雪に隠れた水路に落ちたが気づいてくれなかった。凍死するかと思った。　　(髙田富造)



ＮＦＦＳの記事にあるように木引敬一さんは、すごい記録を残している。いわく、日本選手権ではＦ１Ｂで 1966 年優勝、1967 年２位、Ｆ１Ｃで１９６８年、1973 年、1974 年、1976 年で優勝、1971 年、1978 年で２位。その後も驀進を続けた。二宮賞でも大半で優勝という凄さであった。本人いわく岩村さんなくして成せなかったと。

岩村さんの宿願、二宮賞復活！

大震災に遭遇して記録会となる。2012 年に本格始動へ。

2011 年、関西ＦＦ国際級競技会（関西ＦＦクラブ連合会主催）は皆様の熱い希望で二宮賞の名称を復活させることに決定された。これは岩村さんの宿願でもあった。一番喜んでいただいた。あろうことか前日 3/11 大中に集合して東北大震災のニュースを聞いた。競技会は中止と決定し、記録会をおこなった。私たちとしては鎮魂と励ましの飛行であったと考えた。二宮賞の本格的な始動は 2012 年に持ち越された。がんばりましょう。

Ｆ１A

	1	2	3	4	5	F01	合計
高橋浪男	180	180	179	180	180		899
鷲見健治	180	180	176	180	180		896
山本修　180	180	138	180	180			858

Ｆ１B

	1	2	3	4	5	F01	合計
吉田順一	180	180	240	180	180	407	1367
高田富造	180	180	240	180	180	330	1290
鈴木友信	180	180	240	180	180	247	1207
今村利勝	180	180	240	180	180	225	1185
白井正巳	170	180	240	180	180		950
西澤　実	180	180	208	180	180		928
中田光恭	180	180	220	180	155		915
高山　実	170	180	185	180	180		895
河合　良	180	180	195	180	149		884
吉田　潤	180	180	240	180	98		878
岡崎一良	180	0	170	180	180		710

下・現地に集合して大震災の発生を知り、全員黙祷して競技会の中止を決定し、記録会のみおこなった。黙とうの後、参加の皆様の記念写真。
右・吉田順一さんの鎮魂の飛行。静かな空が印象的な朝だった。